

NIFS Financial Report 2025

鹿屋体育大学財務レポート2025





目次

■ 鹿屋体育大学のガバナンスについて	
・鹿屋体育大学の基本的目標	4
・鹿屋体育大学の運営体制	5
■ 鹿屋体育大学の財務状況について	
・令和6事業年度財務諸表の概要	7
・財務指標の一覧	15
・令和6年度の主な施設整備について	16
■ 鹿屋体育大学の事業活動の紹介	
・社会との共創に関する取組	18
・教育に関する取組	19
・研究に関する取組	20
・グローバル化に関する取組	21
・学生支援に関する取組	22
・社会との連携・社会貢献に関する取組	23
・自己収入の増加に向けた取組	24
・その他の取組	25

鹿屋体育大学の ガバナンスについて





鹿屋体育大学のガバナンスについて

■ 鹿屋体育大学の基本的目標

【1】教育に関する目標

学部：スポーツ・武道及び体育・健康づくり・競技力向上における研究成果に基づいた教育を通じて、国民のスポーツ、健康及び武道を適切に指導し得る専門的な知識と実践力を有し、市民性・国際性を備えた有為な人材を養成する。

大学院：国民のニーズに応じた適切なスポーツ・武道及び身体運動の指導やマネジメント及びプログラム開発、トップアスリートに対する科学的なトレーニングの指導やメニュー開発ができる能力を備えた高度専門職業人として、国内及び国際社会で活躍できる中核的な役割を担う人材を養成する。

【2】研究に関する目標

スポーツ・武道及び体育・健康づくり・競技力向上において、本学の基礎的・応用的・実践的領域での研究を推進する。また、幅広い学問領域からなるスポーツ科学をはじめ、領域を超えた学際的な研究を推進する。さらに、スポーツ・武道及び体育・健康づくり・競技力向上におけるこれまでの研究実績を活かし、産学官連携による研究を開拓・推進する。これらの研究を組織的に支援する体制の整備・充実に取り組む。

【3】地域貢献・社会貢献に関する目標

教育研究の成果を積極的に広く情報発信するとともに、開かれた大学として生涯学習の機会を提供し、教育研究資源の開放を行うとともに、社会との多様な連携を推進し、身体運動による健康づくりとスポーツ・武道文化の振興・発展に貢献する。

【4】その他目標

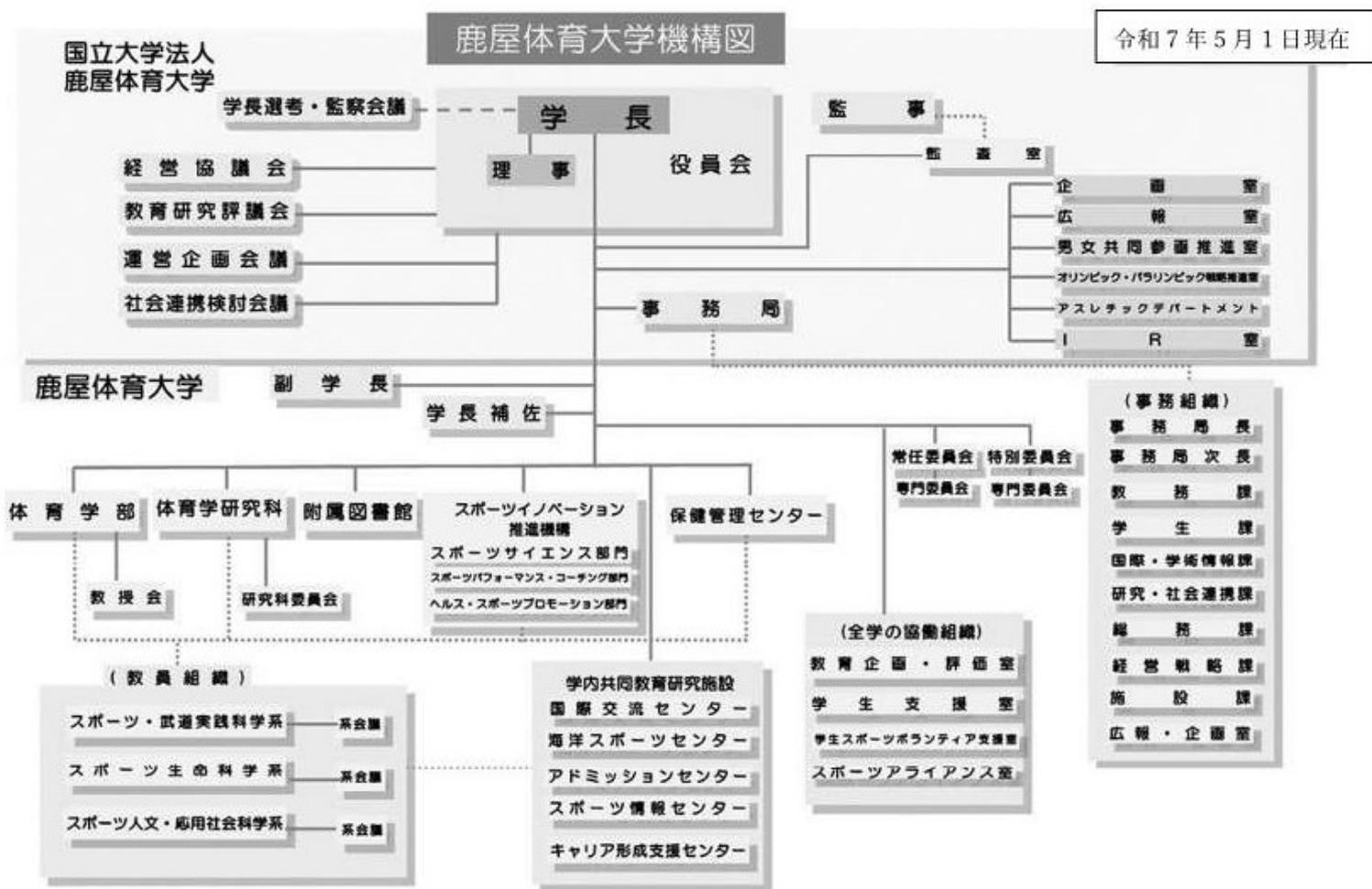
日本のスポーツ・武道文化の教育及びスポーツ実践やスポーツ科学研究等を通じて、海外の指導者や研究者との積極的な交流を推進する。



鹿屋体育大学のガバナンスについて

■ 鹿屋体育大学の運営体制

本学では、昨今の大学を取り巻く社会情勢の変化や、国民のスポーツ・体育、健康へのニーズの高まりなどを踏まえ、本学が持っている体育学分野での機能・資産を最大限に活用し、将来に亘って質の高い教育研究活動を展開していくことを目指すこと、並びに、さまざまな課題や改革などに対して弾力的に対応できるように以下の運営体制を取っています。



鹿屋体育大学の 財務状況について



鹿屋体育大学の財務状況について

■ 令和6事業年度財務諸表の概要

国立大学法人は、国立大学法人会計基準等の定めにより、財政状態及び運営状況を明らかにした財務諸表等を毎事業年度終了後3カ月以内（6月末日まで）に作成し、文部科学大臣の承認を得る必要があります。

○ 貸借対照表

貸借対照表は、決算日（3月31日）における本学の財政状態を明らかにしたものです。資産、負債、及び純資産（資本）の項目から構成されています。

【資産】

科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	対前年度増減	構成比
有形固定資産 計	6,537	6,748	6,880	6,768	△ 111	
土地	1,763	1,763	1,763	1,763	-	23.4%
建物・構築物	4,250	4,339	4,308	4,240	△ 68	56.2%
工具器具備品	103	227	389	347	△ 42	4.6%
図書	408	408	409	409	-	5.4%
船舶・車両	7	3	5	4	△ 1	0.1%
建設仮勘定	-	1	-	1	1	0.0%
その他有形固定資産	3	3	3	3	-	0.0%
無形固定資産及びその他の資産	1	0	10	10	-	0.1%
流動資産 計	507	993	650	765	115	
現金及び預金	462	963	619	706	86	9.4%
譲渡性預金	-	-	-	-	-	0.0%
その他流動資産	44	30	30	59	28	0.8%
資産 合計	7,046	7,743	7,541	7,545	3	

※ 記載金額は百万円単位とし、表示単位未満は切り捨てて表示しています。

構成比については小数点2位以下を記載していないことから合計が100%とならない場合があります。

令和6年度の資産の総額は約75億4千5百万円であり、前年度より3百万円（対前年度比0.05%）増加しています。

主な増加要因としては、現金及び預金の増による流動資産の増加が挙げられます。



鹿屋体育大学の財務状況について

【負債・純資産の部】

科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	対前年度増減	構成比
負債の部	1,379	1,121	948	991	42	
資産見返負債 (R4からは長期繰延補助金)	1,058	344	311	278	△ 33	3.7%
長期リース債務	1	8	155	123	△ 32	1.6%
運営費交付金債務	-	-	23	1	△ 22	0.0%
寄附金債務	51	50	35	37	2	0.5%
短期リース債務	40	3	38	41	2	0.5%
前受受託研究費等	3	2	4	4	-	0.1%
未払金	187	679	348	433	84	5.7%
その他負債	37	33	30	72	41	1.0%
純資産の部	5,666	6,621	6,592	6,553	△ 38	86.9%
資本金	6,317	6,317	6,317	6,317	-	83.7%
資本剰余金	△ 921	△ 813	△ 823	△ 854	△ 31	-11.3%
前中期目標期間繰越積立金	58	202	111	85	△ 25	1.1%
教育研究環境整備積立金	107	-	73	106	32	1.4%
積立金	12	-	840	848	7	11.2%
当期末未処分利益	91	914	72	50	△ 21	0.7%
負債・純資産 合計	7,046	7,743	7,541	7,545	3	0.0%

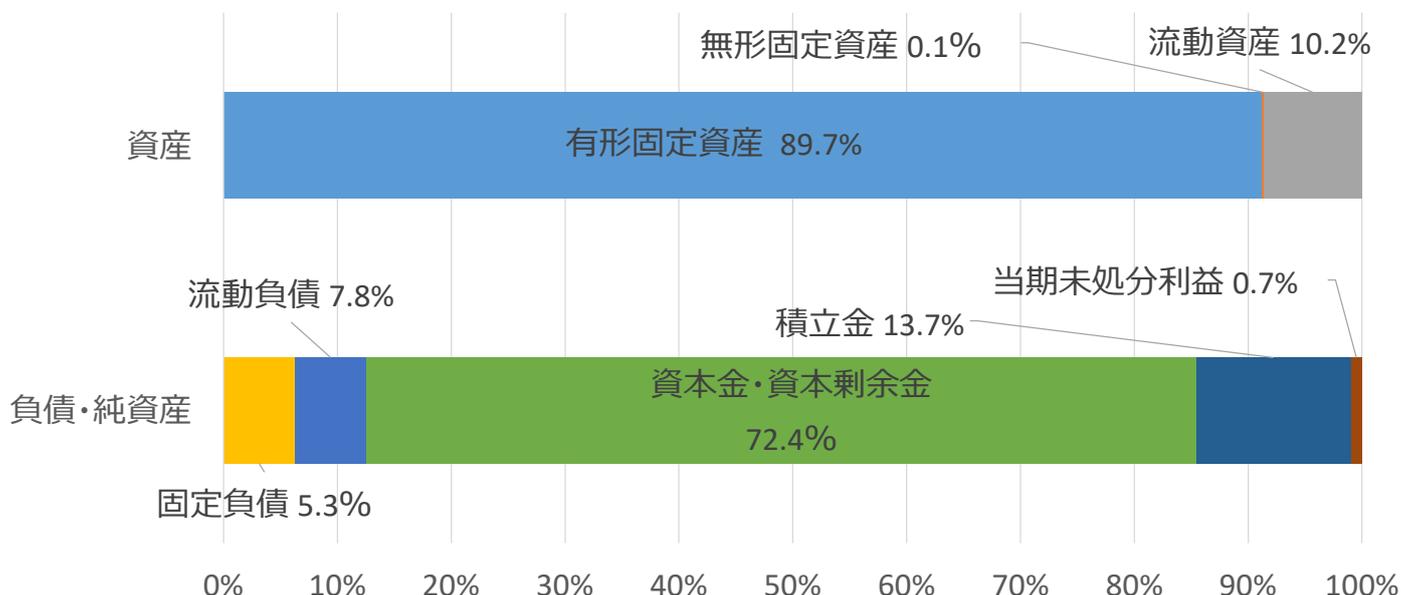
※ 記載金額は百万円単位とし、表示単位未満は切り捨てて表示しています。

構成比については小数点2位以下を記載していないことから合計が100%とならない場合があります。

【負債・純資産の部】

令和6年度末現在の負債の総額は約9億9千百万円であり、前年度より約4千2百万円(対前年度比4.5%)増加しています。

主な増加要因としては、講義棟・陸上競技場改修工事等の高額な支払を4月に行ったことによる未払金の増加等が挙げられます。



○損益計算書

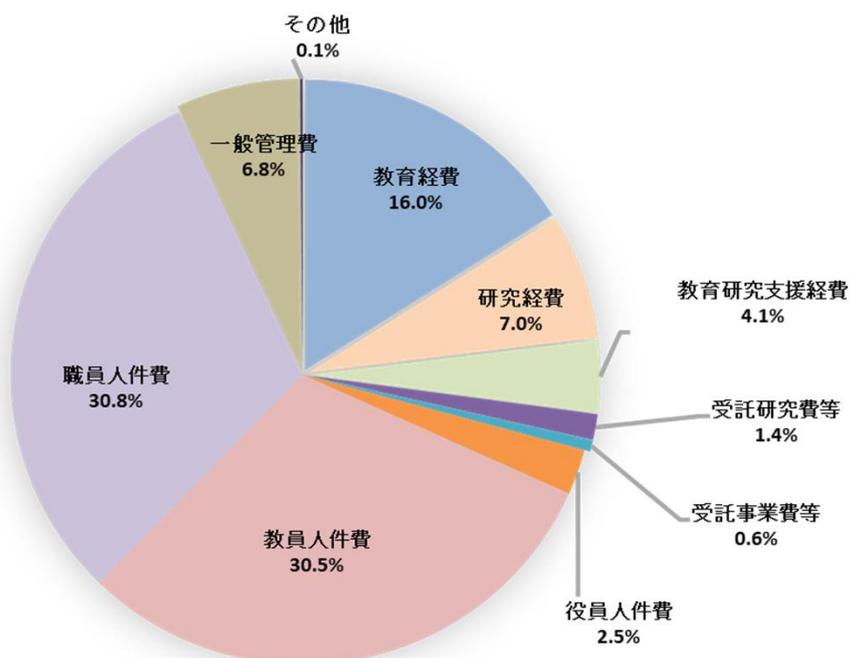
損益計算書は、一事業年度（4月1日～3月31日）における本学の運営状況を明らかにしたものです。大学運営に要した費用と、これを賄う収益を比較対照する財務書類で、その差額により当期の利益又は損失が示されます。国立大学法人会計では、その公共的な性格から「損益均衡」の考え方にに基づき、費用と収益は一致しています。

【費用の部】

科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	対前年度増減	構成比
経常費用						
業務費	1,947	1,930	1,909	2,069	160	93.0%
教育経費	369	344	336	356	20	16.0%
研究経費	140	133	167	156	△ 11	7.0%
教育研究支援経費	87	87	81	90	9	4.1%
受託研究費等	13	20	19	31	12	1.4%
受託事業費等	10	11	13	14	0	0.6%
役員人件費	55	48	49	56	6	2.5%
教員人件費	661	666	659	679	20	30.5%
職員人件費	609	617	583	684	101	30.8%
一般管理費	177	153	168	151	△ 17	6.8%
その他	0	0	0	3	2	0.1%
経常費用 合計	2,165	2,126	2,079	2,224	145	100.0%

※ 記載金額は百万円単位とし、表示単位未満は切り捨てて表示しています。

構成比については小数点2位以下を記載していないことから合計が100%とならない場合があります。



【費用の部】

令和6年度の経常費用は前年度比約1億4千5百万円増の約22億2千4百万円となっています。

主な要因としては、人事院勧告への対応により教員人件費、職員人件費の支出額が増加したことが挙げられます。



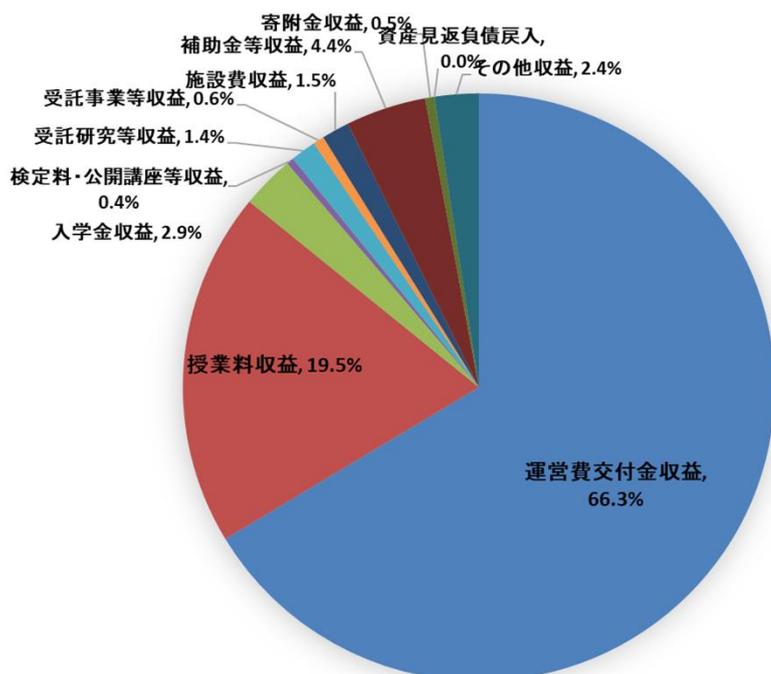
鹿屋体育大学の財務状況について

【収益の部】

科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	対前年度増減	構成比
経常収益						
運営費交付金収益	1,373	1,397	1,400	1,497	97	66.3%
授業料収益	406	444	445	440	△ 5	19.5%
入学金収益	64	64	61	66	4	2.9%
検定料収益	8	7	7	7	0	0.3%
受託研究等収益	13	20	20	31	11	1.4%
受託事業等収益	10	11	13	14	0	0.6%
施設費収益	29	26	26	34	7	1.5%
補助金等収益	69	62	81	100	18	4.4%
寄附金収益	23	10	31	12	△ 19	0.5%
資産見返負債戻入	71	-	-	-	-	0.0%
その他収益	47	51	53	53	0	2.4%
経常収益 合計	2,120	2,095	2,141	2,257	115	100.0%

※ 記載金額は百万円単位とし、表示単位未満は切り捨てて表示しています。

構成比については小数点2位以下を記載していないことから合計が100%とならない場合があります。



令和6年度の経常収益は前年度比約1億1千6百万円増の約22億5千7百万円となっています。主な要因としては、運営費交付金の追加配分による運営費交付金収益の増加によるものです。

【当期総利益（当期末処分利益）】

科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	対前年度増減
経常利益（経常収益－経常費用）	△ 3	12	63	34	△ 28
臨時損失	0	0	0	1	1
臨時利益	56	845	0	0	0
当期純利益	53	858	63	33	△ 29
積立金等取崩	38	56	8	16	8
当期総利益	91	914	72	50	△ 21

上記経常費用と経常収益の状況により、令和6年度の当期総利益は前年度より約2千1百万円減の約5千万円となっています。



鹿屋体育大学の財務状況について

○キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、一事業年度（4月1日～3月31日）におけるキャッシュ（資金）・フロー（流れ）の状況を、業務活動、投資活動、財務活動の3つの区分により、業務活動においてキャッシュがどのように使用され、どのようなキャッシュが入ってきたか、投資活動においてキャッシュがどのように使用されたか、財務活動においてキャッシュがどのように（借入や金銭出資の受入れ等）調達されたか、といった法人の資金状況を明らかにしたものです。

科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	対前年度増減
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	△ 151	270	90	158	68
原材料、商品又はサービスの購入による支出	△ 450	△ 410	△ 472	△ 450	22
人件費支出	△ 1,450	△ 1,298	△ 1,320	△ 1,360	△ 40
その他の業務支出	△ 170	△ 147	△ 141	△ 143	△ 2
運営費交付金収入	1,344	1,397	1,424	1,475	51
授業料・入学金収入	415	436	442	409	△ 33
検定料収入	9	7	7	8	0
受託研究等収入	14	18	19	32	13
受託事業等収入	7	11	16	17	1
手数料収入	-	-	0	0	△ 0
補助金等収入	56	207	51	94	44
補助金の精算による返還金の支出	△ 1	△ 2	△ 0	△ 0	△ 0
寄附金収入	27	4	11	10	△ 1
財産の貸付等による収入	26	27	30	28	△ 2
その他の収入	22	19	25	39	14
国庫納付金の支払額	-	△ 2	-	-	0
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	134	276	△ 430	△ 29	0
定期預金の預入による支出	0	△ 200	△ 200	△ 200	0
定期預金の払戻による収入	0	200	200	200	0
有価証券（譲渡性預金）の取得による支出	△ 400	-	-	-	0
有価証券（譲渡性預金）の売却による収入	1,000	-	-	-	0
有形固定資産の取得による支出	△ 593	△ 124	△ 644	△ 289	355
無形固定資産の取得による支出	0	△ 0	△ 0	-	0
有形及び無形固定資産の売却による収入	0	-	0	-	△ 0
減価償却引当特定資産の繰入による支出	-	-	△ 10	-	0
施設費による収入	127	401	224	260	36
利息及び配当金の受取額	0	0	0	0	0
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 45	△ 45	△ 4	△ 43	△ 39
IV 資金に係る換算差額	0	0	0	0	0
V 資金増加額（又は減少額）	△ 62	501	△ 344	87	430
VI 資金期首残高	524	463	964	620	△ 344
VII 資金期末残高	463	964	620	707	87

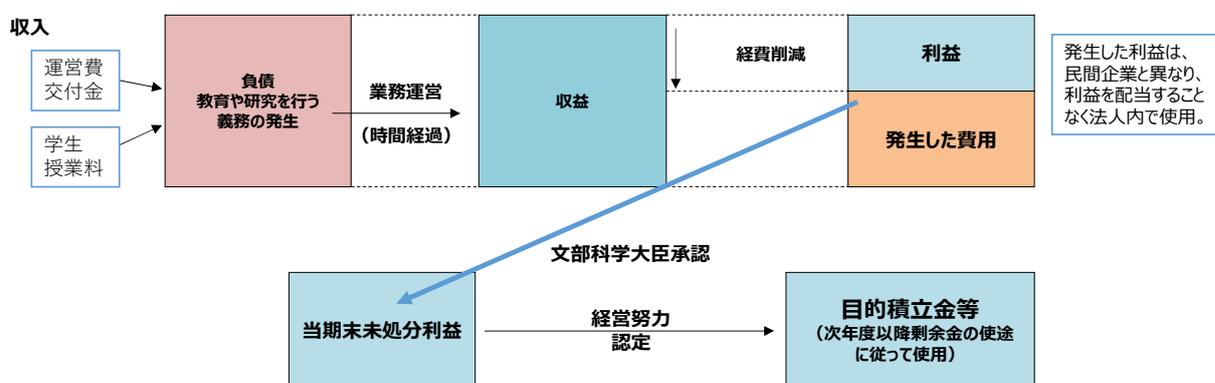
※ 記載金額は百万円単位とし、表示単位未満は切り捨てて表示しています。

令和6年度の資金期末残高は約7億7百万円であり、前年度より約8千7百万円増加しています。主な増加要因として、令和6年度は有形固定資産の取得が令和5年度と比較して少なかったことが挙げられます。

○利益の処分に関する書類

損益計算により生じた利益（又は損失）を、翌事業年度にどのように引き継ぐか、その内容を明らかにしたものです。

国立大学法人は公共的な性格を有し、民間企業と異なり利益を獲得することが目的ではないため、通常の業務活動を行った場合には費用と収益が一致する、という「損益均衡」の考え方から利益は生じません。しかしながら、経費の節減や自己収入の増加等によって生じた利益（＝当期末未処分利益）は、文部科学大臣から『経営努力により生じた利益』と認定された場合は、目的積立金等として翌事業年度に引き継ぎ、中期計画に従って使用することができます。



科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	対前年度増減
I 当期末未処分利益	91	91	72	50	△22
当期総利益	91	91	72	50	△22
積立金振替額	165	-	-	-	-
Ⅲ 利益処分額	257	914	72	50	△21
積立金	257	840	7	13	5
目的積立金	-	73	64	37	△27

※記載金額は百万円単位とし、表示単位未満は切り捨てて表示しています。

当期末未処分利益は、約5千万円となっています。

【目的積立金・教育研究環境整備積立金】

経費節減等による経営努力により生じた利益について、文部科学大臣から目的積立金として承認を得ています。なお、令和5年度は令和4年度の会計基準の改訂に伴う会計処理の反動により、当期総利益が著しく減少しています。

また、積立金については、翌年度以降の会計処理上の損失補填のみに使用します。



鹿屋体育大学の財務状況について

○国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト

国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコストとは、一事業年度（4月1日～3月31日）における国立大学法人の業務運営に関して、税金等による国民の負担（コスト）を明らかにしています。

損益計算書に表示される費用のほか、国等から資産を無償取得したことによる機会費用（有償で活用をした場合掛かるコスト）等から、自己収入等を控除して計上しています。

科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	対前年度増減
I 業務費用	1,537	1,435	1,454	1,608	154
II 損益外減価償却等相当額	287	256	269	274	5
III 損益外減損損失相当額	-	-	-	-	-
IV 損益外利息費用相当額	0	0	0	0	0
V 損益外除売却差額相当額	0	0	0	0	0
VI 引当外賞与増加見積額	△ 4	1	△ 2	0	2
VII 引当外退職給付増加見積額	89	△ 36	13	△ 12	△ 25
VIII 機会費用	11	16	38	77	39
IX (控除)国庫納付額	-	-	-	-	-
X 国立大学法人等業務実施コスト	1,921	1,673	1,773	1,948	175

※ 記載金額は百万円単位とし、表示単位未満は切り捨てて表示しています。

令和6年度の国立大学法人等業務実施コストは約19億4千8百万円であり、前年度より約1億7千5百万円増加しています。

主な増加要因としては、業務費が増加したことが挙げられ、損益外減価償却等相当額の減少額を上回ったため全体として増加しております。

※国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコストにおける引当外賞与加見積額は、国立大学法人会計基準第86第2項に基づき計算された賞与引当金に係る引当外賞与見積額の当期増加額を計上しております。

○決算報告書

決算報告書とは、企業会計原則を基本として作成する財務諸表とは異なり、年度計画に記載されている予算の執行状況について、国の会計に準拠して明らかにしたものです。

(決算額)

科目	令和5年度		令和6年度		差額	対前年度 増減
	予算額	決算額	予算額	決算額		
収入						
運営費交付金	1,404	1,424	1,426	1,499	73	75
施設整備費補助金	213	216	269	252	△ 17	36
補助金等収入	-	49	-	93	93	44
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	8	8	8	8	-	0
自己収入	551	510	554	481	△ 73	△ 29
授業料、入学料及び検定料収入	514	467	518	436	△ 82	△ 31
雑収入	37	43	36	45	9	2
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	28	56	28	66	38	10
前中期目標期間繰越積立金取崩	28	89	-	-	-	-
目的積立金取崩	0	0	74	60	△ 14	60
計	2,232	2,352	2,359	2,459	100	107
支出						
業務費	1,982	1,972	2,054	2,048	△ 6	76
施設整備費	221	224	277	260	△ 17	36
補助金等	-	2	-	20	20	18
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	28	69	28	65	37	△ 4
計	2,231	2,181	2,359	2,392	33	211
収入 - 支出		171		67	67	△ 104

※ 記載金額は百万円単位とし、表示単位未満は切り捨てて表示しています。

- ・収入決算額は、予算額に対し1億円増の24億5千9百万円となっています。
- ・支出決算額は、予算額に対し3千3百万円増の23億9千2百万円となっています。
- ・収入決算額と支出決算額の差額は、令和5年度と比較し約1億4百万円減少しています。



鹿屋体育大学の財務状況について

■ 財務指標の一覧

財務指標	指標の内容	R4	R5	R6
------	-------	----	----	----

○安全性・資産の健全性

流動比率 (%)	短期的な支払い能力を示す指標であり、比率が高いほど支払い能力があると判断されます。	130.4	137.1	131.5
-------------	---	-------	-------	-------

○活動性・収益性

経常利益比率 (%)	経常収益に占める経常利益の割合です。比率が高いほど利益率が良く収益性が高いと判断されます。	0.6	2.9	1.5
教育経費比率 (%)	大学の経費における教育経費の割合です。比率が高いほど教育活動の割合が高いと判断されます。	16.5	16.1	16.0
研究経費比率 (%)	大学の経費における研究経費の割合です。比率が高いほど研究活動の割合が高いと判断されます。	8.7	10.2	9.9
学生当教育経費 (千円)	学生一人当の教育経費額です。学生数は学部学生、修士、博士の合計です。	403	390	424
教員当研究経費 (千円)	教員一人当の研究経費額です。教員数は常勤の教員に係る給与の年間支給人員数です。	2,892	3,609	3,601

○効率性

人件費比率 (%)	人件費が法人の業務費に占める割合です。	69.0	67.6	68.6
一般管理費比率 (%)	経常費用に占める一般管理費の割合です。	7.4	8.1	6.8



鹿屋体育大学の財務状況について

■ 令和6年度の主な施設整備について

施設整備については中期計画における本学の機能維持・改善にかかる目標に沿った、施設マスタープランを策定し、当期は白水講義棟の大規模な改修工事（第Ⅱ期）を実施しました。また、設備についても、設備マスタープランに基づき、本学の教育研究に必要な設備の導入及び更新を行っています。

○白水講義棟改修（第Ⅱ期）工事

実績額：152,170千円

予算：施設整備費補助金

本学の主要建物である講義棟の老朽化対策として、外部建具の改修及び電気設備、給排水・空調設備等の好循環リノベーションを行いました。

（令和5年度から継続）



○陸上競技場改修工事

実績額：95,452千円

予算：施設整備費補助金

本学の主要設備の1つである陸上競技場について、器具庫との老朽化対策として外部建具及び電気設備、給排水・空調設備等を更新したほか、陸上競技場走路のウレタン舗装を整備しました。



鹿屋体育大学の 事業活動の紹介



■ 社会との共創に関する取組

○ スポーツイノベーション推進機構の設置

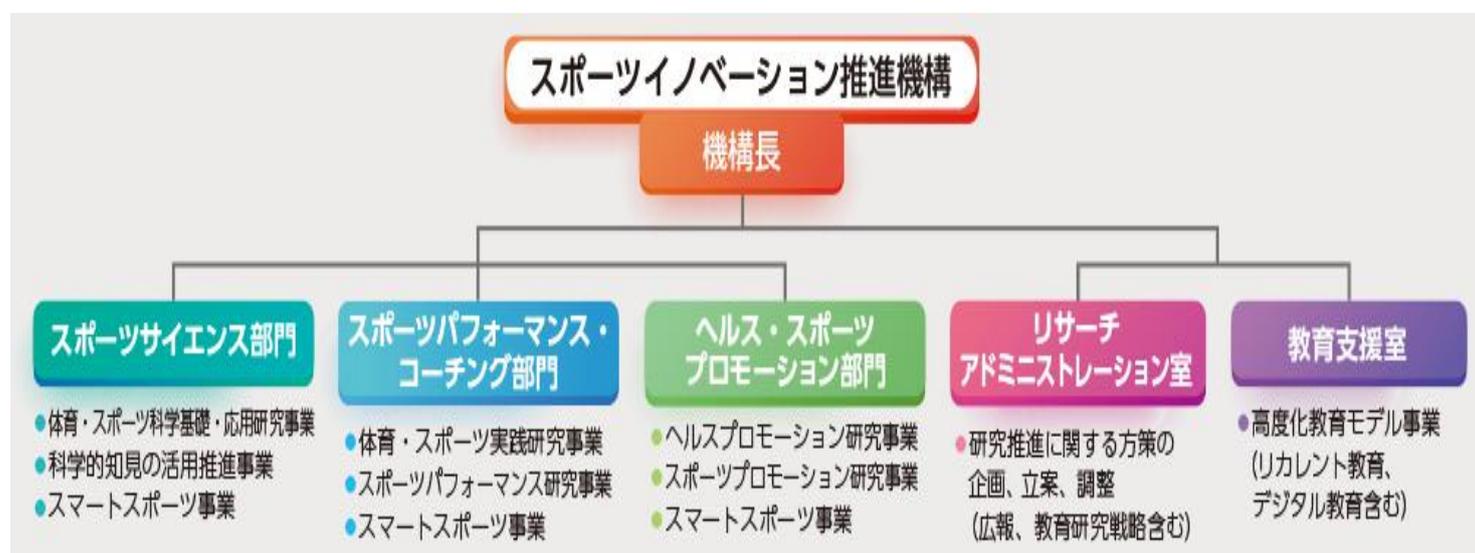
実績額：46,430千円 財 源：運営費交付金

令和5年1月に、「アスリートの育成やさまざまなライフステージに合わせた体力・健康増進に関わる研究プロジェクトで得られた知見をもとに、体育・スポーツ分野における運動実践の指導モデルを構築し、その成果を広く社会に還元するとともに、高度で良質な実践的指導者を育成するために本学の研究資源を統合し、先端的な研究の推進を図ること」を目的として『スポーツイノベーション推進機構』を設置しました。

本機構は、身体運動の制御、メカニクスの解明（基礎・応用研究）等を行う「スポーツサイエンス部門」、オーダーメイド型のトレーニング処方（実践研究推進）等を行う「スポーツパフォーマンス・コーチング部門」、身体運動の制御、健康寿命延伸（スクエアステップ・健康体操）等を目指す「ヘルス・スポーツプロモーション部門」の3部門を設置し、部門を超えて横断的な研究を推進し、「科学的エビデンスに基づく実践指導者の育成」、「スポーツ科学と実践を統合できる研究者の育成」、「日本人の体力向上、健康寿命延伸に直接寄与」することで、社会的貢献を目指しています。

また、3部門を支援し、研究推進を図るため、自治体や企業等との連携による外部資金の獲得等を企画する「リサーチアドミニストレーション室」、高度化教育の大学院教育の推進を図る「教育支援室」の2つの室を設置しています。詳しくは以下のURLより本学のホームページを参照ください。

<https://www.nifs-k.ac.jp/aboutus/overview/sports-innovation/>





鹿屋体育大学の事業活動の紹介

■ 教育に関する取組

○次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)

実績額：20,300千円

財 源：補助金

令和6年度次世代研究者挑戦的研究プログラム助成金

本事業は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の次世代研究者挑戦的研究プログラムに令和6年度から採択されたことにより、博士課程の学生が研究に専念できる環境を整備し、卓越した博士人材の育成や排出を目指し、選抜された学生に対する生活費相当額及び研究費の支給や、キャリア開発・育成コンテンツの提供を始めとした多様な支援を行います。

○学生挑戦プロジェクト

実績額：1,350千円

財 源：自己財源

学生の叶えたいプロジェクト、実現したい企画を募集し、その実現を支援することにより、学生の自主性、企画力、創造性を養うとともに、キャンパスライフの充実・活性化を図ることを目的として実施している事業です。

書類審査と公開発表による審査を経て、採用されたプロジェクトの実現に必要な経費の一部を支援しています。

令和6年度採択プロジェクト名
障がい者と健常者が一緒に楽しめるスポーツ・運動イベントの開催
世界基準のレフェリングを経験する (フランス)
Growing up × 剣道×グローバル (イギリス)
フィリピンの公立小学校でインターンシップ (フィリピン)
本場ドイツのジュニア育成トレーニング科学を学ぶ (ドイツ)
柔道の形の理解を深め、世界形選手権大会 (U-23) への出場と世界一を目指す
地域貢献におけるスポーツが持つ力とは？： 鹿屋体育大学硬式野球部の価値向上に向けて



鹿屋体育大学の事業活動の紹介

■ 研究に関する取組

○ 子どもの運動プログラム『Exseed』の発展・普及

登山者の運動プログラム『Exhike』の発展・普及

実績額：905千円 財 源：運営費交付金、自己収入

『Exseed』プロジェクトは、子どもの頃から身体を動かす習慣を取り入れることで、自然と運動する習慣を身につけてほしいということから始まりました。『Exseed』は5分間の運動で、正しいフォームでしっかり身体を動かすことで効果が期待できるように作られています。この『Exseed』プロジェクトは、当初から「KKB鹿児島放送」とともに、地域の皆様への還元を推進している共同研究として実施している取組であり、同社の動画配信アプリ「KAPLI」で配信されています。「Exseed」の詳細については、こちらのURLから本学ホームページを参照ください。

<https://www.nifs-k.ac.jp/social-cooperation/exseed/>

『Exhike』プロジェクトは、身体を鍛えることで登山中の事故やけがを防ぐことを目的として開発された、ダンス風エクササイズです。音楽に合わせて身体を動かしながら、登山に必要な筋力や身のこなしを身につけていくというコンセプトです。登山での事故を回避し、健康的な山歩きができるようになるために、筋力、柔軟性、バランス能力、コーディネーション能力などを身につけることができます。「Exhike」の詳細については、こちらのURLから本学ホームページを参照ください。

<https://www.nifs-k.ac.jp/social-cooperation/exhike/>

EXseedを 難易度別に体験
KKB動画アプリKADLIやYouTubeチャンネルでExseedの動画を配信中!
KADLIはダウンロードはコチラから!
EASY 簡単 動画はこちら
BASIC 簡単 動画はこちら
HARD 簡単 動画はこちら
単独 動画はこちら
二人数 簡単 動画はこちら

お問い合わせ
国立大学法人 鹿屋体育大学
〒904-8502 鹿児島県鹿屋市山内町1番地
鹿屋体育大学Exseed課
TEL: 0994-46-5019 E-mail: exseed@nifs-k.ac.jp
URL: https://www.nifs-k.ac.jp

EXseed
5分間の運動で体カアップ!!

EXseedって 何だろう?
Exercise + Seed (運動)
"Exseed"は運動の"エクササイズ(Exercise)"と種を意味する"Seed(種)"を組み合わせた言葉です。
種から種を生でるよ"to" "運動の種(Seed)"を種き、子どもの頃から楽しく運動に親しむことで習慣化され、未来のアクティブな世代に引き継いでいってほしいという思いを込めました。

Exhike = Exercise (運動) + hike (ハイキング)



鹿屋体育大学の事業活動の紹介

■ グローバル化に関する取組

○ JICA連携派遣による海外研修

本学と国際協力機構（JICA）が締結した連携派遣に係る覚書に基づき、2024年度から2026年度の3か年にわたり、本学柔道部の学生をペルー共和国へ派遣します。



○ 連携派遣覚書締結に係る署名式

JICA海外派遣協力隊連携派遣に関する覚書を締結し、令和7年1月10日に署名式を執り行いました。

○ 初めての短期派遣を実施

令和7年2月17日～3月16日の約1か月間、柔道部学生2名がペルー共和国で活動しました。学生はペルー日系人協会に所属しながら、現地の指導者と共にリマ市内の道場等で柔道指導にあたったほか、現地の日本人学校やJICA専門員の配属先を訪問する等、柔道以外の文化的な交流についても積極的に取り組みました。





鹿屋体育大学の事業活動の紹介

■ 学生支援に関する取組

○ 修学支援基金

実績額：564千円 財 源：寄附金

経済的理由により修学困難な学生への授業料免除等の支援を拡充するための「鹿屋体育大学修学支援基金」は、令和6年度は1,433千円の受入があり、4名の学生に対し、入学料の半額免除を行いました。

○ 課外活動への支援

実績額：約40,500千円

財 源：運営費交付金

国際大会、全日本大会及び全日本学生大会での活躍が期待される選手・団体並びに国際大会において入賞等が期待される選手・団体（令和6年度重点強化指定チーム7団体、重点強化指定選手36名、国際競技大会特別強化指定選手6名）に対し、経済的支援を実施し、支援した選手・団体が以下のとおり好成績を収めました。

・第63回NHK杯 男子種目別あん馬 1位

・第78回全日本体操種目別選手権

男子種目別あん馬 3位

・第93回全日本自転車競技選手権大会トラックレース 女子エリートチームスプリント 1位

・2024年日本学生陸上競技個人選手権大会 男子800m 男子3000m障害【1位】





鹿屋体育大学の事業活動の紹介

■ 社会との連携・社会貢献に関する取組

○Blue Winds事業の取組

財 源：自己収入、受託事業費、寄附金

大学スポーツを通じて鹿屋市をはじめとする地域との交流の輪を広げ、地域の活性化を目指すBlue Winds事業に取り組んでいます。

令和6年度は、気軽に大学を訪れる機会の創出や地域のスポーツ実施率の向上を目的に、本学の施設を活用した「キャンパスウォーキング in NIFS」を開催しました。このほか、「2024カレッジスポーツデー」を開催し、硬式野球・サッカー・バスケットボール・バレーボール・陸上競技など計10競技の試合等では、計5,836名が観戦しました。

今後も、地域の方々と一緒にスポーツを通じたイベントを開催し、地域の活性化に貢献していきます。Blue Winds事業の取組について、詳細は以下のURLから本学ホームページをご確認ください。

<https://www.nifs-k.ac.jp/social-cooperation/blue-winds/overview/>



(↑ウォーキング教室の様子)



(↑柔道のカレッジスポーツデーを開催)



鹿屋体育大学の事業活動の紹介

■ 自己収入の増加に向けた取組

○「鹿屋体育大学未来創成基金」を設立

実績額：1,717千円

財 源：寄附金

広く社会から寄付を受け入れることにより、本学の教員研究の活性化を図るとともに、国際交流および社会連携の推進に資することを目的として、令和5年4月1日に「鹿屋体育大学未来創成基金」を設立しました。本基金は、教育研究の活性化、国際交流、社会貢献の推進につながる事業の支援に使用する予定であり、令和6年度は1,717,212円の寄付がありました。

○ネーミングライツ・パートナー契約の更新

実績額：2,200千円

財 源：自己収入

令和5年2月9日にスポーツパフォーマンス研究センターのネーミングライツ契約を行いました。令和6年度も契約を更新し、引き続き「SPORTECスポーツパフォーマンス研究センター」となりました。

契約期間は令和6年4月1日から令和7年3月31日の1年間であり、命名権料の220万円は、同センターの運営及び施設設備の維持管理費に充てるとともに、本学のイメージアップにつながることを期待されます。





■ その他の取組

○ 研究費不正使用防止の取り組み

・誓約書の徴取

本学では、毎年度当初に、研究費の使用に関わる教職員から、文部科学大臣が決定したガイドラインで定める、研究費の不正使用を行わない等の誓約事項を記載した「誓約書」を徴取しています。

・公的研究費使用の手引きの配布

本学の研究費不正防止室では、教職員向けに「公的研究費使用の手引き」を作成しています。また、手引きの内容については、文部科学大臣が決定したガイドラインに沿った内容となっているか確認し、改訂を行っています。

・公的研究費の適正な執行に関する説明会の実施

本学では、毎年度、教職員向けに公的研究費の適正な執行に関する研修（eラーニング）を実施し、併せて理解度アンケートを実施することで、公的研究費の適正な執行について、学内全体での理解度を深める活動を行っています。

本学の研究費不正使用防止に関する取組について、詳細は以下URLより本学のホームページを参照ください。

<https://www.nifs-k.ac.jp/research-and-collaboration/research/fraud-prevention/>

○ 管理的経費節減の取り組み

・資源節約

「鹿屋体育大学における経費節減に係る基本方針」に基づく、実行計画の取組状況の検証を毎年度行うとともに、講義室や教員研究室、事務室の不使用时の消灯による節電やペーパーレス会議による資源の節約を引き続き推進しています。

・物品の共同調達契約による経費節減

九州地区大学による物品（コピー用紙、トイレトーパー等）の共同調達に本学も参加し、管理的経費の節減を図っています。

また、本学における経費節減の取組については、以下の基本方針に基づき実施しています。<https://www.nifs-k.ac.jp/images/5-f-32.pdf>

鹿屋体育大学財務レポート2025

発行：鹿屋体育大学経営戦略課
会計室予算決算係

TEL：0994-46-4835

Mail：yoketsu@nifs-k.ac.jp

